

# 開館5周年記念展（第6回特別展）

## 海のむこうへのあこがれ - 漂流記と漂流文学 -


大黒屋光太夫記念館

開館5周年記念展（第6回特別展）


### 海のむこうへのあこがれ

漂流記と漂流文学

日本財団 助成事業  
財団法人 大黒屋光太夫記念館




北極聞略  
[和蘭文]




魯西亜国  
漂泊聞書  
[和蘭文]




漂流者  
[和蘭文]




井上靖




吉村昭




漂流記  
[和蘭文]



「おろしや国」  
酔夢譚  
[和蘭文]



「大黒屋光太夫」  
[和蘭文]



漂流文学  
[和蘭文]


**開催期間** 2010年 10月6日 [水] ~ 11月28日 [日]

**大黒屋光太夫記念館**

開館時間: 10:00~16:00  
 休館日: 月曜日 (祝日の場合は翌日)・火曜日・第3水曜日  
 (10月11日 [月]・11月23日 [火] は開館)

〒510-0224 三重県鈴鹿市若松中一丁目1-8  
 TEL&FAX 059-365-3797  
 受付時間 <http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/kodayu>  
 大黒屋光太夫記念館 検索 オプション

**入場無料**  
 先着1000名に  
 展示解説冊子を  
 配布します。  
(1冊あたり1冊に限りお配りいたします)



江戸時代、不運にも航海の途中で嵐にあい、異国へ漂流してしまう例はたくさんありました。そして、彼らが帰国するとその経験をもとに漂流記が作られました。漂流記は、江戸時代には数少ない海外情報の担い手として広まっていきました。

明治維新後、忘れられる運命にあった漂流記に着目したのは、石井研堂でした。そして、それはやがて文学者の目にとまります。漂流記を題材に作品を書いた作家は、井上靖・吉村昭・井伏鱒二など多数おり、それぞれの世界観の中で、漂流者たちを描きだしています。今回の特別展では、明治以降の漂流記の変遷に注目し、大黒屋光太夫を中心とした漂流者たちの、現代に息づく姿を紹介します。



開館5周年記念展 (第6回特別展)

# 海のむこうへのあこがれ

## 漂流記と漂流文学

村上康成  
『大黒屋光太夫』複製  
『現代総合芸術委員会委託制作』



岸上儀  
『大黒屋光太夫』複製

関連  
行事

大黒屋光太夫記念館  
開館5周年記念イベント **バラライカミニコンサート&  
「おろしや国酔夢譚」、「大黒屋光太夫」朗読会**

日 時: 11月14日 (日) 13:30~  
会 場: 若松公民館 多目的ホール (大黒屋光太夫記念館より徒歩1分)  
入 場: 無料  
申込み方法: 電話または、メールでお申し込みください。(先着100名様)  
受付期間: 10月20日 (水) ~  
申込み先: 電話 059-382-8031 (若松市役所文化課)  
メール: [bunka@city.suzuka.mie.jp](mailto:bunka@city.suzuka.mie.jp)  
(お名前と住所・お電話番号を明記の上お申し込みください。)



阿波物語 (阿波市人形浄瑠璃会蔵)



石舟斎画「漂流記本巻目録」(東京海洋大学付属福島の島田書院蔵)

学芸員による展示解説を10月6日 10:00~、11月14日 15:30~ 行います。

### 出演者紹介

北川 翔 (パサライカ)



本場音楽部等音楽関係で  
あつた音楽活動を続け、東京  
都立パサライカアンサンブル  
副マネージャー、パサライカ専  
属であった事を引つづくと共に  
持ち、自主制作LPのリリースの  
音楽に関わり、7度で野合  
デビュー。  
01年、東京バラライカアン  
サンブルにドラム専攻として  
入団、その後の活動に専念。04年、ロシア国立ラフマニ  
ノフ音楽大学に音楽院に専攻留学として入団。05年、  
日本入団となる。ロシアのアラライカアンサンブルを  
卒業。06年、A・ダブローフ音楽大学に音楽専攻、パサ  
ライカアンサンブルの副マネージャーとして「野合」専攻  
留学として入団。専攻としてだけでなく、母校のマスコミとの  
関係を築き、TV、新聞でも大きく取り上げられた。06年、  
日本コロムビアレコードアンサンブル専攻。07年、1stアルバム  
『Sounds of Barakka』発表。08年11月、第7回国際  
ロシア民族音楽コンクールでパサライカアンサンブルの  
パサライカアンサンブルとして、全ロシアでパサライカアン  
サンブルの歴史、伝統、発展を説く。10年、アルバム「  
パサライカ」発表。TV、新聞、雑誌等に大々的に取り上げられ、  
日本コロムビア音楽専攻を卒業して戻っている。ロシアの  
音楽家、演奏家、文、学とつながりを持ち、その音楽と  
音楽性とのつながりは、本場でも高い評価を得、日本は  
もとより、世界から注目される、音楽界のバラライカ  
音楽である。



長瀬 和隆 (ギター)

45歳、山口県生まれ、幼少よりピアノを  
弾き、高校時代にギターを始め、大学時  
代にギター専攻。指導師を長瀬寛之に  
師事。卒業後「新編ギター専攻音楽部」  
に属し、ギター専攻に入る。月野  
「ギターとミュージック」編集長を経て、「ギター  
専攻音楽部」の幹事に就任。その後「長  
瀬和隆のギターアンサンブル」のリーダー  
を務め、長瀬寛之の師に師事。パサライ  
カアンサンブル、CD録音にも参加。03年  
以降、つとにリーダーを務め、長瀬と  
ロシア交流が盛ん。09年8月「開館5周年記念  
ロシア民族音楽コンクール」の副賞として、  
長瀬和隆のギターアンサンブル、レコーディ  
ング、(注)日本ギター専攻音楽部、日本  
ギター専攻音楽部長。



河原 穂子 (ヴァン)

●演奏会体験  
「国際音楽フェスティバル」参加。  
●三重県立音楽センター(三重県)  
5回連続で文学部講師として受講。  
●2005年入団のアンサンブル講師。  
●特別付随音楽専攻生、長瀬和隆大  
学音楽科、長瀬和隆大学講師、長瀬  
和隆センター、長瀬和隆大学講師、長瀬  
和隆センター、長瀬和隆大学講師。  
●横ロー東、長瀬和隆、長瀬和隆分  
校、近代音楽学専攻科 講師。  
●三重県立音楽センターにて、2009  
年11月「開館5周年記念」の開催と  
スタート。  
●瀬戸内海航路の高級クルーズ船、



●近鉄名古屋線伊勢志摩駅下車南へ1km  
●近鉄名古屋線女子駅下車タクシー10分  
●路線インターから徒歩約10分